

銃と権力闘争

鉄砲が日本に伝来したのは、長引く内乱の時代であった。1460 年代に足利幕府（1336-1573）の権威が失墜し、その権力の真空を埋めるために地方の大名が 1 世紀以上にわたって争った。鉄砲はその戦いの勝敗を左右し、鉄砲を導入した大名はライバルに対して優位に立つことができた。

鉄砲の影響は、他の軍事的変化によってさらに大きくなった。1543 年に火縄銃が登場したとき、大名はすでに足軽を中心とした軍隊の有効性を認識しており、騎馬武士に代わって足軽が戦場で活躍し始めていた。弓などの武器よりはるかに訓練が少なくて済む銃器は、足軽の役割にぴったりで、足軽はまもなく大名軍の主要な砲術部隊となった。

先駆者：織田信長

火縄銃と最も関係の深い大名は、織田信長（1534-1582）である。信長は 16 世紀の戦国時代にほぼ天下を手中に収め、1573 年に足利将軍を退位させ、ライバルたちのほとんどを打ち負かした。

信長は、革新的で型破りな軍事思想家として知られている。1549 年、彼は国友の鉄砲鍛冶から 500 個のマッチロックを購入し、すぐに鉄砲を装備した足軽衆を効果的に使うようになった。1575 年の長篠の戦いでは、信長軍の 3000 人の鉄砲隊が、信長の天下取りの最後の障害となった武田勝頼（1546-1582）の騎馬隊の突撃を打ち負かした。

武装蜂起した者たち：一向一揆

一向一揆とは、農民、下級武士、武装した仏僧の集まりのことで、大名とは異なる。一向一揆の戦闘部隊は、特に火器の導入と製造が早かった。

1569 年、一向一揆は、現在の名古屋市の支配権をめぐる織田家と対立した。1570 年、国友と並ぶ鉄砲の産地であった根来寺の僧兵を中心とした一向一揆軍が信長軍を待ち伏せた。3,000 人の鉄砲隊は、信長を退却させるのに貢献した。この戦いは 10 年に及ぶ長期戦となり、信長は大きな犠牲を払って勝利した。